

ニッセイ インターネットアンケート ～「バレンタインデー」について～

日本生命保険相互会社（社長：清水博）は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューの一つとして、ホームページ (<https://www.nissay.co.jp>) 内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「バレンタインデー」に関するアンケート調査を実施しました。

《アンケート概要》

- 実施期間：2025年1月4日(土)～1月15日(水)
- 実施方法：インターネットアンケート(「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー)
- 回答者数：11,716名(男性：5,737名、女性：5,752名、その他・無回答：227名)

＜年代別回答者数＞

[名]

年代							合計
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
男性	220	617	881	1,861	1,549	609	5,737
女性	348	893	969	1,757	1,286	499	5,752
合計	568	1,510	1,850	3,618	2,835	1,108	
占率	4.8%	12.9%	15.8%	30.9%	24.2%	9.5%	

《アンケート結果のポイント》

ポイント①

質問 1～3

【バレンタインデーにおけるプレゼントについて】

- 今年のバレンタインデーに「プレゼントを渡す予定」と回答した方の割合は、昨年と比べて男女ともに低下し、全体としては35.3%となった。
- 「職場の人にプレゼントを渡す」と回答した方の割合は12.5%と低下した。
- 職場の人や仕事関係者へのプレゼントについて、約7割の方が「(どちらかといえ)必要ではない」と回答した。

ポイント②

質問 4～6

【プレゼントの金額について】

- 今年のバレンタインデーに「配偶者・パートナー等へ渡すプレゼント」の平均金額は3,272円となった。
- 「自分自身へのプレゼント」の平均金額は4,761円となり、昨年の4,265円から大きく増加した。
- 今年のホワイトデーに「配偶者・パートナー等から希望するプレゼント」の平均金額は3,553円となった。
- バレンタインデーに渡すプレゼントの平均金額と、ホワイトデーに希望するプレゼントの平均金額を比較すると、ホワイトデーの希望金額が上回った。

ポイント③

質問 7～8

【物価上昇の影響】

- 約8割の方が「プレゼントの予算や渡す人数は変わらない」と回答した。

【バレンタインデーにおけるプレゼントについて】

＜アンケート結果のポイント＞

- 今年のバレンタインデーに「プレゼントを渡す予定」と回答した方の割合は、昨年と比べて男女ともに低下し、全体としては 35.3%となった。
- バレンタインデーに「プレゼントを渡す」と回答した方の割合が最も高かった都道府県は香川県となった。
- 誰にプレゼントを渡すかについて、「職場の人」と回答した方は 12.5%と低下した。
- 職場の人や仕事関係者へのプレゼントについて、約 7 割の方が「(どちらかといえば) 必要ではない」と回答した。

質問 1 今年のバレンタインデーにプレゼントを渡しますか？ (回答者数：11,716名)

		今年		昨年		一昨年	
		(%)		(%)		(%)	
全体		35.3		37.6		34.5	
	男性	13.0		14.5		10.3	
	女性	57.6		62.3		59.8	

「はい」と回答した割合は男女ともに低下

■ 渡すと回答した方が多かった都道府県ランキング (海外含)

今年 (%)			昨年 (%)		
順位	都道府県	占率	順位	都道府県	占率
1位	香川県	51.7	39位	愛知県	33.5
2位	沖縄県	50.9	40位	埼玉県	32.9
3位	福島県	50.8	41位	千葉県	32.5
4位	鳥取県	50.0	42位	奈良県	31.9
	海外	50.0	43位	三重県	31.4
6位	宮崎県	49.2	44位	群馬県	31.3
7位	佐賀県	43.9	45位	宮城県	31.1
8位	熊本県	43.0	46位	長崎県	30.6
9位	山梨県	42.3	47位	富山県	30.2
10位	広島県	42.1	48位	茨城県	28.2

質問 2 <質問 1 で「渡す」を選択した方への質問>

今年は誰にプレゼントを渡しますか？ (回答者数：4,402名) ※複数回答可

	今年	昨年	一昨年
	(%)		
配偶者・パートナー	64.3	66.2	64.1
子	28.0	29.4	27.8
親	12.5	13.4	15.6
兄弟・姉妹	3.5	5.0	5.2
その他の親族	6.3	6.8	6.0
恋人	3.8	4.2	5.0
好意をいただいている人	1.4	1.6	1.8
職場の人 (上司、同僚、部下)	12.5	14.1	14.7
職場以外の仕事関係者	1.6	1.7	1.9
友人	7.3	8.2	8.3
お世話になっている人	6.4	8.4	7.8
芸能人・アイドル	0.1	0.2	0.2
自分自身	10.4	13.2	12.2
その他	1.3	3.3	3.3

「職場の人」は連続で低下

質問3 職場の人や職場以外の仕事関係者へプレゼントを渡すことについてどう思いますか？

(回答者数：11,716名)

(%)

内容	全体								
		男性	女性	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
必要だと思う	8.0	8.5	7.5	15.2	8.6	7.6	6.7	6.7	11.6
どちらかといえば必要だと思う	19.7	17.9	21.6	20.3	20.5	19.0	19.9	19.2	19.5
どちらかといえば必要ではないと思う	29.1	27.1	31.1	25.2	28.6	30.0	29.1	31.1	25.4
必要ではないと思う	43.2	46.5	39.7	39.4	42.3	43.4	44.2	42.9	43.5

「(どちらかといえば)必要でない」が約7割

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 上席研究員 久我尚子くがなおこのコメント>



今年はバレンタインのプレゼントを渡す人がやや減少しています。ただし、これは昨年が一時的にやや高まった反動であり、中長期的な減少トレンドへ戻ったと考えられます。昨年は新型コロナウイルス感染症の5類移行後、初めてのバレンタインであり、消費行動の平常化が押し上げ要因となったのでしょうか。今年は特に仕事関係者へのプレゼントがさらに減少しています。テレワークの定着により、義理チョコ文化が一層衰退していることや、物価高の影響で本命チョコやご褒美チョコを優先する傾向が強まっていることが背景にあると考えられます。

また、仕事関係者へのプレゼントを「不要」と考える割合は30～60代で7割を超えて高水準です。デジタル化の進展や転職の増加により、職場での人間関係は希薄化していることも影響しているのでしょうか。年賀状じまいをする人が増え、お歳暮やお中元を贈る方も減少傾向にある中、バレンタインも仕事関係では簡略化が進んでいると考えられます。

【プレゼントの金額について】

＜アンケート結果のポイント＞

- 今年の日ヴァンタインデーに「配偶者・パートナー等へ渡すプレゼント」の平均金額は3,272円となった。
- 「自分自身へのプレゼント」の平均金額は4,761円となり、昨年の4,265円から大きく増加した。
- 今年の日ヴァンタインデーに「配偶者・パートナー等から希望するプレゼント」の平均金額は3,553円となった。
- 日ヴァンタインデーに渡すプレゼントの平均金額と、日ヴァンタインデーに希望するプレゼントを比較すると、日ヴァンタインデーの希望金額が上回った。

質問4 日ヴァンタインデーに渡すプレゼントの金額をいくらで考えていますか？ (回答者数：2,891名)

質問5 「自分自身へのプレゼントの金額」をいくらで考えていますか？ (回答者数：1,899名)

質問6 日ヴァンタインデーのプレゼントの金額はいくらを希望しますか？ (回答者数：2,870名)

「日ヴァンタインデー」に渡すプレゼントの金額

「日ヴァンタインデー」に希望するプレゼントの金額

	配偶者や パートナー等へ		自分自身へ		配偶者や パートナー等から	
	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年
1,000円未満	25.8	29.0	41.1	39.6	29.3	31.5
1,000円～2,000円未満	33.9	31.2	20.9	23.0	29.1	27.8
2,000円～4,000円未満	23.3	21.8	14.1	15.1	21.4	20.4
4,000円～10,000円未満	13.2	14.2	15.6	15.1	15.4	15.4
10,000円～30,000円未満	2.8	2.7	5.7	5.2	3.7	3.7
30,000円以上	1.1	0.9	2.7	2.0	1.2	1.2
平均値	3,272	3,238	4,761	4,265	3,553	3,472

「自分自身へ」の
プレゼントは496円増加

【物価上昇の影響】

<アンケート結果のポイント>

○ 約 8 割の方が「プレゼントの予算や渡す人数は変わらない」と回答した。

質問 7 物価の上昇は「プレゼントの予算」に影響しますか？ (回答者数：11,716名)

質問 8 物価の上昇は「プレゼントを渡す人数」に影響しますか？ (回答者数：11,716名)

■物価の上昇によるプレゼントの予算と人数への影響

(%)

	予算		人数	
昨年より増やす	78.6	5.9	75.9	2.7
変わらない		72.7		73.2
昨年より減らす	21.4		24.1	

約 8 割が「増やす」
または「変わらない」

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 上席研究員 久我尚子くが なおこのコメント>

物価高で家計の負担感が増す中でも、8割の人がバレンタインの予算や人数について「増やす」または「変わらない」と回答しています。日常的な出費は節約しつつも、1年に1回の特別な消費は楽しみたい、大切な人へのプレゼントは維持したいと考える方が多いのでしよう。

また、「自分自身へのプレゼント」の予算が増加していることも特徴的です。これは、仕事関係者へのプレゼントが減ったことで「自分自身」にかかる予算が増やせるようになったことに加え、商品価格が上がる中でも、自分へのご褒美チョコにはこだわりたいという意識が背景にあることが考えられます。

なお、バレンタインデーに渡すプレゼントの金額と比較すると、ホワイトデーに期待するお返しの金額はやや高くなっています。お返しを考える際の参考にしてみてください。

以上

2024-3151G, 広報部